

アーティスト・イトゥは2009年からパリと東京でパフォーマンスを続けている。彼は学生時代はテニスで、その後はマーケティング業界で活躍。同時に著者活動も始める、著作「バカでも年収1000万円」は日本でベストセラーになり、韓国、中国でも訳される。

イトゥは、自分の白い燕尾服に陽気でカラフルな色をペイント、それが最初の作品となる。

2014年にはパリのマレ地区に自分のギャラリー「Galerie itu'」を開く。

ここでは、「着られるアート」をコンセプトに、スニーカー、帽子、皮のカバン、絵画など、オリジナルの作品を展示し、そして、特に彼自身をも表現している。

イトゥ自身、彼の作品の一部として、切っても切れない関係である。

自分自身をキャンバスとして、メークに保護された姿で彼は外の世界の目に自分を晒しています。それは、彼を安心させるようです。

彼のアートの中でのカラーの使用は、人間本来の恐怖心を乗り越える為の行為、だと私に告白してくれました。

”もし、この恐怖心がなければ、カラーのない白黒の作品達になっていただろう！”と彼は言います。

ギャラリーの展示はイトゥの新しい考え、アイデアによって常に入れ替わるので、このエキセントリックでかつ謙虚な、若くて才能のあるアーティスト・イトゥに会える、年に6回のヴェルニサーージュを逃すわけにはいかない！

2016年、パリの春はますます、面白くなる。